

国営公園初の整備段階からの市民参加 - こもれびの里活動を通して -

関東地方整備局 国営昭和記念公園事務所調査設計課 三井雄一郎

1. 国営公園における市民参加の意義

近年、多様な主体による緑とオープンスペースの保全・創出に関する取り組みの推進は、重要な政策課題となっている。社会資本整備審議会都市計画部会公園緑地小委員会答申(平成15年4月)においても、市民やNPOなど多様な主体が緑に関して取り組むために、行政が積極的に参画の機会を拡大することの必要性が指摘されている。

国営公園は、都府県の圏域を超える広域利用対応や我が国固有の文化資産活用・国家的事業として整備管理する大規模公園であり、市民参加活動の意義として以下の点が挙げられる。

・新たな公園利用の一形態の提供：

生活に密着した参加形態ではなく、国営公園というフィールドにおいて自分の持つ技能を活かした社会貢献や自己啓発、人とのふれあいなどを実現

・人的・物的情報の蓄積・発信：

国営公園の利用圏は広域であり、利用者が公園に積極的に参加することにより人的・物的情報の豊富な蓄積、広域的な発信が可能

国営昭和記念公園「こもれびの里」では、全国の国営公園として初めて整備段階から本格的な市民との協働(パートナーシップ；共通の問題意識をもつ当事者たちが、対等な立場で協力して共に働くこと)の取り組みを行っている。その先駆的な取り組みは、都市公園における行政と市民の協働のモデルケースになると考えられる。

2. 「こもれびの里」について

2.1. 基本方針

武蔵野の農村風景や生活文化を再現し、様々な体験を通して、かつてのくらしの知恵を再発見して、将来へ向けて発展継承することを目的に、市民と協働で**昭和30年代の武蔵野の農村風景にあった心象風景を再生する**場とする。

「こもれびの里」の整備は計画段階から市民参加の手法で行うものとしており、計画・整備・管理の各段階を通して市民が継続的に参加することとする(表1)。

表1 各段階における参加項目

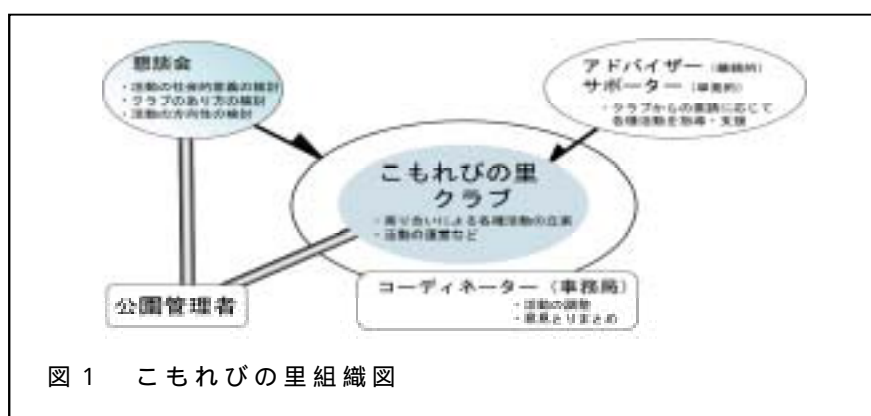
段階	参加内容	実例
計画	・基本方針を基に活動や施設について議論 ・意見を収集して計画や設計に反映	・ワークショップ ・寄り合い
整備	・簡易な施設整備 ・工事の節目行事への参加	・畑・水田作り ・木橋造り
管理	・通常期の維持管理 ・伝統的な年中行事の実施	・農地、農家の管理

2.2. 運営の仕組みについて

こもれびの里では、下記のような組織で運営を行っており（表2，図1）、公園管理者も含めて、それぞれが役割や位置づけを明確に意識しながら、市民の自主性を尊重しつつ、主旨に沿った事業展開が図られるような工夫を行っている。

表2 運営の仕組み

組織名	役割
懇談会	活動の方向性や意義を大局的な観点から検討し、クラブを支援する
アドバイザー	クラブの活動において専門的、継続的な技術支援を行う
サポーター	クラブの活動において専門的、単発的な技術支援を行う
コーディネーター	活動の調整、とりまとめ役



3. 「こもれびの里クラブ」について

3.1. クラブ員の募集について

以上の主旨から、市民とともに事業を進めるにあたって、整備方針、施設計画への意見を集めるために、平成14年7月に「こもれびの里クラブ」の会員募集を行った。募集方法は、公園ホームページ、園内チラシ、ポスター、広報誌及び記者発表等によって行い、同年9月に60名で発足した。

3.2. 活動の概要

クラブ員には、農作業をはじめとするさまざまな体験を通して、**コンセプトをより深く理解すること**、意見を出し合いの中で**基本イメージをふくらませること**（写真1）、それらを共有し、設計に反映させることで、**こもれびの里の心象風景（イメージ）を具現化することが期待されている**（図2）。さらに、将来的には、運営及び管理の実体を担う組織となることが前提となっており、クラブ員のスキルアップが図られている。

- ・活動日 : 毎週土曜日
- ・活動内容 : 計画
 - ・建設設計〔作業小屋設計に対する意見出し、とりまとめ〕
 - ・植栽・土木設計〔現況植栽調査、水田地割り、管理計画作成等〕
- : 整備
 - ・農作業〔手作業による開墾、畑、水田〕

- ・ 小型工作物整備〔木橋、農具小屋、〕
- ：管理
- ・ 食品加工〔梅漬け、果実酒作り〕
- ・ 年中行事〔餅つき、繭玉作り〕

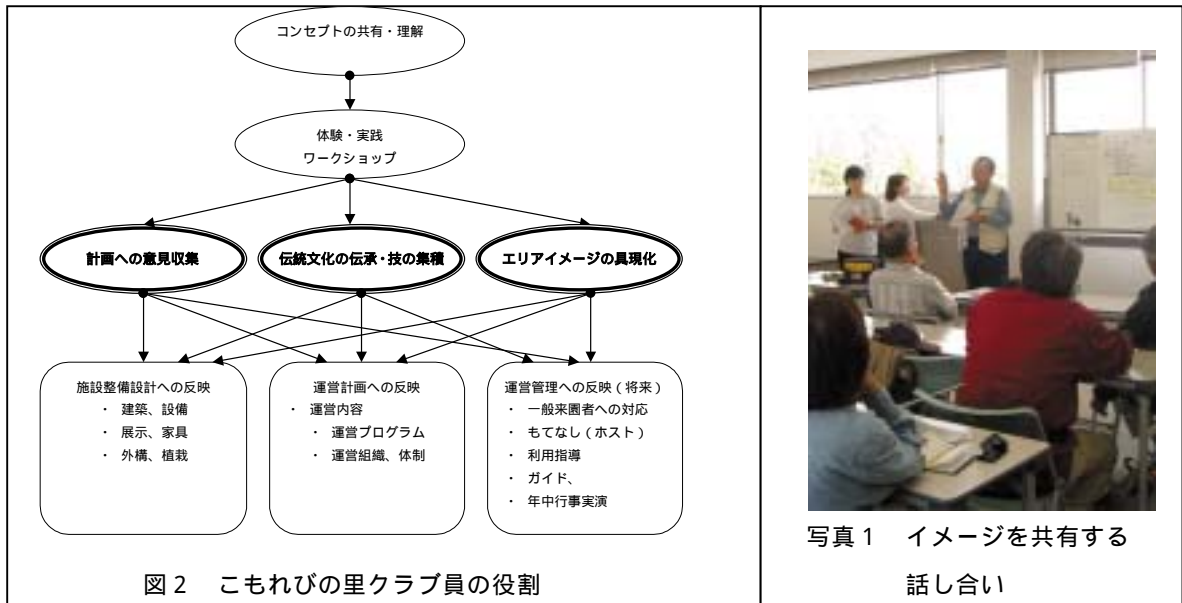


写真1 イメージを共有する話し合い

4. 運営の課題・留意点

限られた参加者だけの市民参加の場にならないための情報公開を行う

クラブの活動の節目ごとに、記者クラブへの記事投げ込みを行うことやクラブ員手作りの壁新聞を制作すること、またそれらを園内各ゲートに掲示すること、さらに、こもれびの里専用ホームページを公開することでクラブ員以外の市民の方々に情報を開示している。それらの対応によって、クラブ員自身がこもれびの里クラブの情報を改めて知り、クラブ外に情報が流されていること、公園のために行っている活動であることを活動時に強く意識するといった副次的な効果も得られている。

コンセプトを正しく理解するために、広く叡智を集める

こもれびの里の活動においては、クラブ員が活動計画を立案する。その際、文献や古老へのヒヤリング等によって、コンセプトにあっていくかどうかの検証を行っている。平成15年5月には、クラブ員自らの企画で実際に農村風景を再現している都立公園での、見学会を行った。

クラブ員自らが叡智を集める活動に加えて、前述の懇談会によって環境、福祉、民俗、教育、伝統等、多様な分野の叡智を集められ、クラブ員へアドバイスが送られることで、支援を行なわれている。

公共空間での活動に対する理解を得る

こもれびの里での活動が進むにつれて、火の使用や占有などについて、活動計画と都市

公園のルールの間で整合性がとりにくい場面が出始めた。そこで、クラブ員自ら関連法規や公園のルールに則った活動を行えるよう、都市公園法等に関する勉強会を行いたいとの希望があり、法律など公園ルールに関する勉強会を行った。それ以来、活動計画を立案する際に、活動が公園ルールに準拠しているかどうか良く検討されるようになった。

また現在、こもれびの里は未開園区域であるため、一般来園者との活動者が区別できるよう共通のウエアを作ることも計画されている。

その他の課題として、収穫物の取り扱いが挙げられる。活動も一年を迎え、ジャガイモ、麦など収穫物が大量に得られた。これらの取り扱いに関しては、自己消費するのではなく、公益性、公共性の観点から福祉団体に寄付を行った（写真2）。収穫物の取り扱いについては現在も懸案の一つとなっており、今後はこれらを来園客に振る舞う案や売ることによって活動資金にするという案も出ている。両案とも検討中ではあるが、特に平成19年の開園後、クラブ員が新たな形で来園者をもてなす側になることを公園事務所としても期待している。平成14年12月には、公園内の他のボランティア団体との交流のため、もちつきが実施され（写真3）、クラブがイベントの準備も開始している。

よく話し合っ相互に理解しながら、計画や整備を行う

ワークショップによって、キーワードについてのイメージを抽出し、共有を図っている。プロセスとしては、まず公園案として施設設計にあたって基本案をクラブ員に提示し、使い方や必要な設備、仕様などをクラブ員が話し合っ設計に関して意見を出す。クラブ員の意見が集約されたものを公園が検討し、再び公園案としてクラブ員に提示する。このプロセスが何度か行き来することで、最終的に設計が決定することになっている。

一方で、普段の活動についても、畑、水田、植生などテーマによるチームを作り、テーマごとの活動計画を書面で作成している。それらはクラブ内の寄り合いによって再度検討され、スケジュール調整等が行われた上で、公園管理者が承認し、活動を行われる仕組みとなっている。

5. 今後の活動について

今後は、こもれびの里クラブの活動を軌道に乗せながら公園管理者側からの支援の程度を減らし、将来的には、こもれびの里クラブが当公園のコンセプトを理解し、真のパートナーとして自立した活動ができるよう、展開する予定である。



写真2 収穫物の寄付



写真3 他団体との交流